



## 北村 真奈美 (きたむら まなみ)

2018年4月より地圏資源環境研究部門地圏メカニクス研究グループに配属となりました。北村真奈美と申します。私は、学部から博士課程まで広島大学で学び、2016年9月に学位を取得しました。その後、活断層・火山研究部門に産総研特別研究員PDとして所属しておりました。

専門は実験岩石力学・構造地質学です。博士課程までは、南海トラフに関連する断層帯・断層周辺地質体について、研究を行ってきました。修士課程までは、炭質物(ビトリナイト)を用いて四万十帯の温度構造や断層帯の摩擦発熱温度について研究を行ってきました。博士課程では、南海付加体堆積物の強度と変形様式の深度変化を調べました。産総研着任後は、超臨界流体が存在する高温花崗岩体を対象に、超臨界地熱開発に伴う誘発地震発生のメカニズム解明を目指して実験的な研究を行っています。今後も継続して、超臨界条件下における花崗岩

## 地圏資源環境研究部門 地圏メカニクス研究グループ

の力学的・水理学的特性を明らかにしていこうと思っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



## 井口 亮 (いぐち あきら)

2018年4月から、地質情報研究部門・海洋環境地質研究グループの主任研究員として配属となりました。井口 亮です。私は、学部・修士課程を京都大学で過ごした後、オーストラリアのJames Cook Universityで博士号を取得しました。その後、琉球大学・東京大学で研究員として研究活動に従事し、沖縄工業高等専門学校・生物資源工学科の助教として4年半勤めてから、産総研に着任しました。

私の専門は分子生態学で、主に生物の遺伝子情報を取得して、生物の進化・生態を明らかにする研究を進めてきました。分子生態学の研究手法は、遺伝的多様性の評価や連結性の把握にも活かすことができ、これらの情報を踏まえて、環境影響評価にも繋げることが可能です。産総研では、海底鉱物資源開発における環境ベースライン調査・環境影響評価を主な研究課題として、研究手法の高度化を進めたいと考えております。

## 地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

産総研では、様々な分野の研究者が、研究の最前線で活発な研究活動を展開されている点にとっても魅力を感じております。今後産総研の研究者の方々と、ぜひ研究を通じて交流させて頂ければと希望しておりますので、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。





## 須田 好 (すだ このみ)

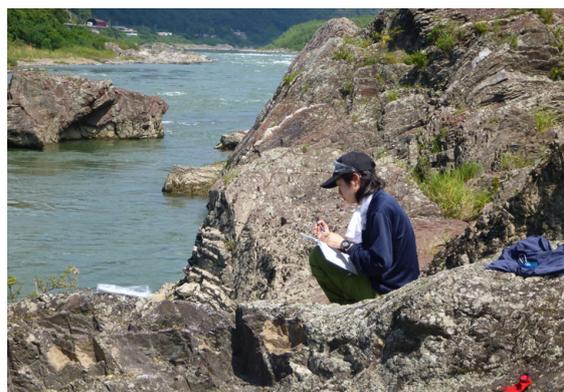
## 地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ

2018年4月より任期付研究職員として地圏資源環境研究部門・地圏微生物研究グループに配属となりました。須田 好と申します。学部から博士課程まで東京工業大学で地球惑星科学を学び、2016年3月に東京工業大学理工学研究科地球惑星科学専攻にて学位を取得致しました。学位取得後は海洋研究開発機構、産総研(地圏微生物研究グループ)でのポスドクを経て、現在に至ります。

専門分野は地球化学と地球史です。卒業論文研究時より、初期地球解読を目標として、超苦鉄質岩と水の反応が関わる“蛇紋岩-水反応系”を対象とした研究を行ってきました。在学中は主に水素と炭素の安定同位体比を利用して、蛇紋岩温泉中に含まれる炭化水素ガスの生成機構の解明に取り組みました。産総研では「地下微生物を活用した燃料資源開発研究」に加わり、諸先輩に教わりながら新たに微生物学的な実験技術や専門知識を学んでいます。

これまでの地球化学的な経験を活かしつつ、他分野への理解を深めることで、多角的な視点から自然現象を捉えられる研究者を目指したいです。また、誠実かつ丁寧に研究対象と向き合うことを大切にしたいと思います。

今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 清家 弘治 (せいけ こうじ)

## 地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

2017年12月から海洋環境地質研究グループに主任研究員として配属されました。清家弘治と申します。東京大学地球惑星科学専攻で2009年3月に学位を取得した後、横須賀市久里浜にある港湾空港技術研究所・沿岸土砂管理研究チームにおいて学振PDとして約3年間過ごし、その後は東京大学大気海洋研究所で助教として5年間ほど勤務しました。大学院から前職では、現在の海洋生物が形成する生痕(巣穴や這いあと)や生痕化石を研究してきました。

生痕化石の種組成(生痕相)は、地層形成時の古環境を示す有用な復元指標であるとされています。古環境復元ツールとしての生痕化石の有用性は広く認識され、堆積学、古生物学、そして資源探査の分野で活用されています。その一方で、生痕化石からより正確な古環境情報を得るためには、まず現世の生痕について調べ検証する必要があります。しかし

ながら、これまでの現世生痕の研究の大半は、半陸上環境である干潟や砂浜などでの実施に留まってきました。今後の私の研究では、堆積環境と生痕相の関係性を我が国周辺の今現在の沿岸・海洋堆積物を対象に調べ、より強固な生痕相分布モデルを構築することを目指しています。





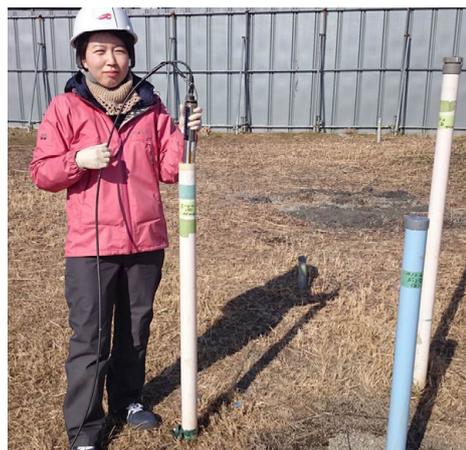
## 吉川 美穂 (よしかわ みほ)

地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ

本年3月より任期付研究員として地圏資源環境研究部門・地圏環境リスク研究グループに配属になりました。吉川美穂と申します。私は地下に広がる見えない世界に魅力を感じ、東京農工大学の土壌化学の研究室で、農地における炭素貯留等、比較的“綺麗な土壌”における環境問題の研究を行ってきました。修士課程修了後は、民間企業の研究員や産総研のテクニカルスタッフとして、専ら工業地域の“汚い土壌”を環境微生物により浄化する仕事に取り組み、昨年3月に学位を取得しました。微生物の汚染物質分解能を利用して、土壌汚染物質であるベンゼンやテトラクロロエチレンなどの揮発性有機化合物を浄化する技術は、浄化の不確実性等の問題により十分に実用化が進んでいないのが現状です。これに対し、私は浄化手法の新規開発や、微生物学のみならず土壌化学的アプローチも考慮した研究を行っています。

未熟な研究者でありますので、多岐に渡る専門家の皆様にお力添えを頂き、“汚い土壌”を“綺麗な土壌”へ変え、土壌汚染対策という社会課題に少しでも貢献できるよう、

これからの日々の研究に邁進していきたいと思えます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 南 裕介 (みなみ ゆうすけ)

活断層・火山研究部門 火山活動研究グループ

今年度より地質調査総合センター 活断層・火山研究部門 火山活動研究グループに配属されました南 裕介です。これまでは火山性土石流(ラハール)と水蒸気噴火について火山地質学の観点から研究を行ってきました。ラハールについては堆積物の地形的、堆積学的特徴とその相関について、鳥海火山北麓の火山麓扇状地を対象に研究を行いました。地表踏査と掘削調査を行うことで、流走するラハールの運搬・堆積過程の変化や火山活動との関係を明らかにしました。水蒸気噴火については御岳山の2014年噴火の噴出物を対象に、噴出物の鉱物学的特徴を斑岩銅鉱床における変質作用と対比することにより、水蒸気噴火を引き起こした熱水系の特徴と噴出物の起源深度を明らかにしました。

今後は火山内部の熱水変質作用とラハールを含めた火山活動との関係について研究を行っていきたくと考えています。小規模な水蒸気噴火は山頂付近に堆積物が残りにくいのが問題とされていますが、ラハール堆積物のような再堆積物をうまく使うことにより、小規模噴火の堆積物を検出し、その

説明が行えれば、と考えております。未熟者ではございますが、皆様にとぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

